

地域ブロック：関東

ルート名称：秩父路ルネッサンス

活動名称：景観整備と観光ガイドツアーを連携する一連の魅力アップ活動

## 1. 活動の概要

### (1) 活動内容

- ① 「地域通貨」を活用した持続的まちづくりの基盤づくり
- ② 地域住民による観光ルートとボランティアガイドの開発

### (2) 活動による成果・効果

- ① 「地域通貨」を活用した持続的まちづくりの基盤づくり
  - ・ 各種活動に参加してもらったボランティアに地域通貨を発行し、別のイベント参加時の参加費として利用されたなど、わずかながら循環がみられた。
  - ・ ファンドの仕組みの一員となる、「秩父魅力アップ応援団」の可能性を探るべく、秩父地域外での出前講座の開催をし、来客者数など一定の効果を得た。
- ② 地域住民による観光ルートとボランティアガイドの開発
  - ・ 16コースのまちあるきマップを作成した。作成にあたり、一般の参加者を募集し、ルートの開発やガイドの体験などを行った。また、各地元の語り部や自然、歴史資源などの新たな発掘を行った。

### (3) 活動のきっかけ、目的・目標

- ・ 秩父の地域内にはこれまで様々な活動や取り組みを行う団体が存在していたが、それらが連携せず、独立して存在していた。しかし持続的な活動の継続と、魅力の向上を実現するためには、それらの活動を無理なく結びつけていく仕組みが必要と考えた。
- ・ ボランティア地域通貨の原資となる「秩父魅力アップファンド」の仕組みづくりを目指し、この仕組みにより地域通貨がうまく地域内で循環することを目標としている。

## 2. 取り組み内容

### (1) 活動を行うに当たっての主な課題

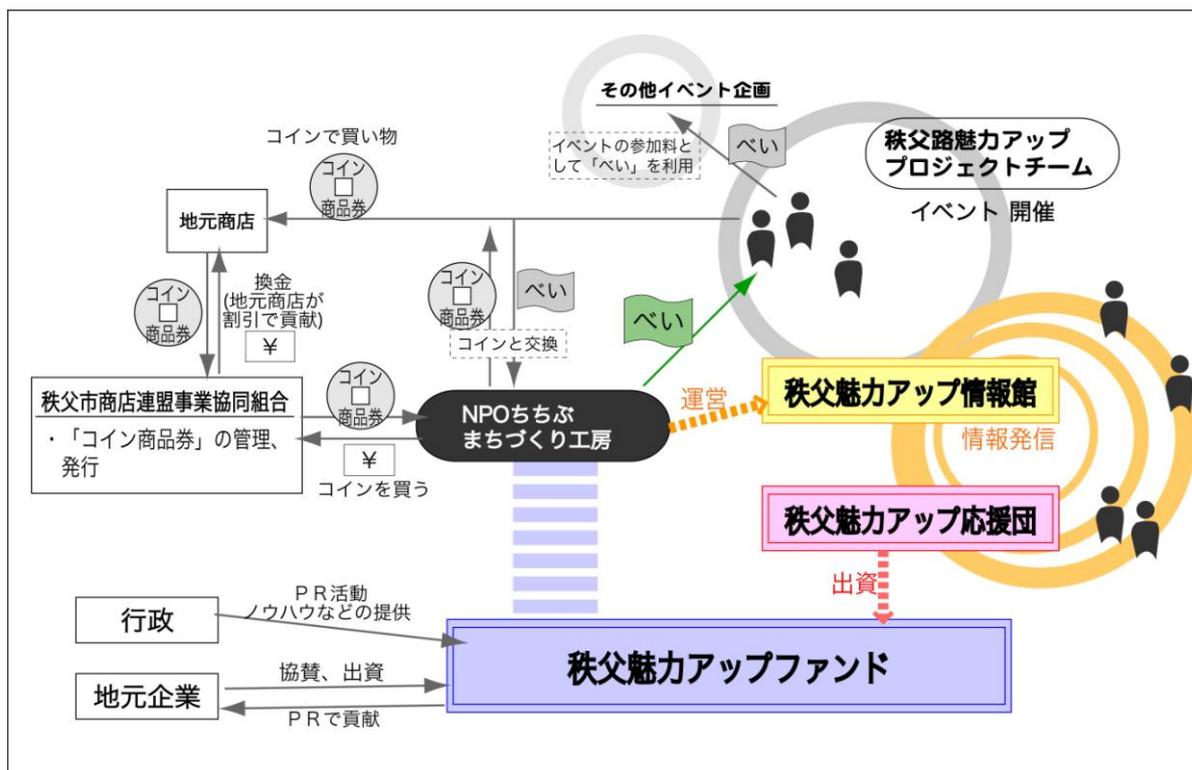
- ① 「地域通貨」を活用した持続的まちづくりの基盤づくり
  - ・ 地域通貨の原資をどこから調達するか（ファンドの創設）
- ② 地域住民による観光ルートとボランティアガイドの開発
  - ・ 地域の魅力を地域住民が理解していない。
  - ・ 地域の魅力が多く、来訪者にわかりにくい。

### (2) 具体的取り組み内容

- ① 「地域通貨」を活用した持続的まちづくりの基盤づくり

#### 1) ファンドを含めた仕組みづくり(H18年度)

地域通貨の原資をどうするかが一番の課題であるため、ファンド「秩父魅力アップファンド」を含めた仕組みづくりを考えた。



## 2) 地域通貨「秩父魅力アップ券」の作成 (H18年度)

ボランティア地域通貨「秩父魅力アップ券」は一枚500べいという単位であるが、1000べいで既に地元に応まっているコイン型商品券（ボランティア用に特別版を制作）と交換でき、地元の商店などで買い物ができることとした。これは、他地区の事例などから地域通貨のみではなかなか利用されないことが多いため、この仕組みとした。

地域のNPOなどの活動団体と協力し、ボランティア活動を開催し、参加者に地域通貨を交付した。その場でコイン型商品券に交換してもよいし、また別のイベントなどで参加費として地域通貨を使える仕組みとした。

## 3) ファンド『秩父魅力アップファンド』の可能性を探る (H19年度)

ファンドに協力してもらえる地元の企業などにヒアリングなどを行い、その可能性を探った。また、秩父圏域のみではファンド組成に必要な、人的財源的基盤が不十分と考え、埼玉県南都市部を取り込んだ交流によるファンド組成の可能性を検討した。これは、観光ボランティアガイドと連携し、その参加者が徐々に秩父ファンとなり、いずれその一部が秩父魅力アップファンドの出資者となる仕組みである。ここではその為の組織を仮に『秩父魅力アップ応援団』と名付けた。しかし、これはまだ実験段階の試みであり、正式に『応援団』の組織化は行っていない。

## 4) 秩父魅力アップ情報館と出前講座の開催 (H19年度)

埼玉県内により広く秩父の魅力を知ってもらい、秩父地域の応援をしてもらう、またゆくゆくは「秩父魅力アップファンド」に出資してもらえるような「応援団」となるネットワークの可能性を探った。秩父地域以外の場所（浦和、川口、所沢）において、秩父の魅力を発信するために、パネル展示や、秩父の地元住民が魅力を実際に話して伝える「出前講座」の開催をした。



## ② 地域住民による観光ルートとボランティアガイドの開発

### 1) ガイドと語り部によるまちあるきの仕組みづくり

まず初めに地域住民が自ら地域資源を発見し、自ら来訪者にその魅力を伝えることで、地域の魅力を再認識し、活用する仕組み作りを行った。

この仕組みのポイントは、案内をする側が「ガイド」と、「語り部」に別れていることである。より深く地元の魅力を伝えるために、それぞれの場所に縁のある「語り部」がその場所の説明などを行い、「ガイド」はその語り部の場所まで連れて行く役割を果たす。

### 2) ちちぶ人と訪ねる小さな旅（16コース）の開発（H18年度）

現在までに、毎月16コースの散策会を開催し、新たな来訪者（観光客）の獲得と、合わせてガイドの育成を2年あまりの期間実施してきた。これによりこれまでに16コースを2巡している。

### 3) 新たな資源の発掘のための「五感の風景」の取り組み（H19年度）

風景街道の活動をきっかけに五感の風景というテーマに着目し、五感の風景の募集を実施。多くの風景資源が集まった。

### 4) 五感の風景資源を調査し、その活用を検討（H20年度）

五感の風景の活用を目指し、季節に着目し、季節で移ろう風景を定点調査した。それに基づき、五感の風景暦を作成した。

### 5) 数ある資源を解りやすく来訪者に伝える為の新規観光ルートの開発（H21年度）

20年度の風景暦を参考にしつつ、それらを訪ねる、新規の「ちちぶびとと訪ねる小さな旅」の開発を行う。

今年度2コースを作成中である。

## 3. 取り組み上の反省点、活動の結果生じた課題、その対応方針等

- これまで、持続的活動のための基盤となる様、ファンド組成を検討してきた。その為に観光ガイド事業を通して、圏域内外の交流を促進し、少しずつではあるが、秩父に関心を寄せ、これらの活動を応援してくれるベースが出来てきた。しかし、本格的なファンド組成にはまだ、金融機関の応援、その為の手数料を生み出すまでの事業収益性など、課題は多い。
- これからは、中心市街地や道の駅などの拠点の整備とそれらをネットワークする仕組みを平行して検討し、観光ガイド事業を持続的な市民事業としていきたい。

#### 4. 問い合わせ先

所属団体：NPO法人ちちぶまちづくり工房

担当者名：市川 均

電話番号：0494-24-7775

メールアドレス：

関連HP：<http://www.npo-chichibu.or.jp/>